

UIFA JAPON NEWSLETTER



No. 128 Sep. 25, 2024

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

国際女性建築家会議 日本支部

■主な内容

UIFA JAPON 会長就任挨拶
UIFA JAPON 2024 年度 通常総会報告
特集：UIFA JAPON 設立 30 周年記念事業「1×1 コレクション展」
・「1×1 コレクション展」を開催しました
・「1×1 コレクション展」オープニングパーティ
・パオラ・ゼルナー IAWA 議長のメッセージ抄録
・総会記念講演会「IAWA 女性プロフェッショナルの貢献を記録する意義と手法」を聞いて
・デュネイ夫妻、日本女子大学と（株）大林組本社を訪問
・「1×1 コレクション展」に参加して
被災地通信 30
会員の本



2024.06.30 「1×1 コレクション展」設営・オープニングパーティを終えて、前列左から4人と5人目がデュネイ夫妻（写真：平野正秀）

UIFA JAPON 会長就任挨拶 UIFA JAPON Inaugural Address as President 伊藤 京子 ITO Kyoko

この度 UIFAJAPON 会長に就任致しました愛知県在住の伊藤京子です。設立してから30年の実績を大切に、会の目的（会員相互・海外組織の交流と情報交換、国際交流の促進と国際社会への貢献）に沿った活動をしていきます。皆様とともに充実した活動ができ、会に入っていて良かったと思っただけの事を願って挨拶とさせていただきます。



I am Kyoko Ito, a resident of Aichi Prefecture, and I am pleased to assume my appointment as President of UIFAJAPON. As we approach the 30th year since its establishment, I would like to advance the goals of UIFAJAPON while cherishing its legacy. We

hope that our members will feel proud to be a part of our association.

UIFA JAPON 2024 年度 通常総会報告 UIFA JAPON 2024 Annual General Meeting Report 伊藤 京子 ITO Kyoko

2024年6月14日（金）書面による総会報告がZoomにより開催（出席者数26名）。冒頭、トゥ・ラ・トゥール UIFAJAPON 会長より UIFAJAPON 30周年記念お祝いのビデオメッセージが紹介されました。100才を超えても元気な会長の姿に感激。

正会員数59名。書面審議回答者数53名（表決書提出者数32名、委任状提出数21名）は、正会員数59名×1/2 = 29.5名を超えており総会が成立しました。

新体制スタート

会則の変更として副会長の人数が2名から3名になりました。次いで役員が改選され 新会長に伊藤京子、新副会長に森田（上田）美紀・薄井温子、新理事に小林淑子・清本多恵子・杉原尚子・平野啓子、新監事に岩井紘子が就任し、新体制となりました。

海外交流への発展を願って

様々な活動の報告・計画が発表されました。被災地支援の継続や、中でも「1×1プロジェクト」を成功させ、この経験を元に海外交流へと繋げていく期待が膨らんでいます。コロナの流行で途絶えていた海外交流を是非復活させたいものです。

UIFA JAPON 2024 Annual General Meeting Report by Kyoko Ito

A written report of the general assembly was held via Zoom, which was attended by 53 participants, and proxies. At the beginning of the meeting, UIFAJAPON President Solange d'Herbez de La Tour introduced a video message celebrating the 30th anniversary of UIFAJAPON. I was moved to see she's still in good health, even at over 100 years old. The general meeting was successfully approved.

New System and Leadership Structure

A change in the association's rules increased the number of vice president from two to three. The board of directors has been elected, and a new structure has been started with a new president, Kyoko Ito, and three vice presidents.

Hoping for the Development of International Exchange

Among the various activity reports and plans announced, including ongoing support for disaster-stricken areas, there is considerable hope for the success of the '1×1 Project,' with expectations that the experience gained would contribute to promoting international exchange.



UIFA JAPON設立30周年記念事業「1×1コレクション展」開催概要

展覧会会場：（一社）日本建築学会 建築会館ギャラリー

講演会会場：（一社）日本建築学会 会議室301 zoom言語通訳機能使用（同時通訳）

共催：IAWA（International Archive of Women in Architecture 国際女性建築家アーカイブ）

2024.06.30	10：00～16：00 16：00～18：00	作品の設営（出品数47点） オープニングパーティ（参加者38人）
2024.07.01 ～2024.07.06	11：00～19：00	「1×1コレクション展」開催 来館者 延211名
2024.07.01	18：00～19：30	UIFA JAPON設立30周年記念事業 2024年度総会記念講演会 講師：ドナ・デュネイ氏（IAWA名誉議長） 『女性プロフェッショナルの貢献を記録する意義と手法』
2024.07.07	10：00～	作品の撤収、バージニア工科大学へ郵送

1×1 コレクション展を開催しました。

Holding the 1×1 Collection Exhibition

実行委員長 森田 美紀

Executive Committee MORITA Miki

■「1×1 コレクション展」開催の経緯

2011年には、IAWAと共催で「未来へー女性建築家のパイオニアたちの肖像」展を同じ建築会館ギャラリーを皮切りに東京・横浜・埼玉県で開催した。

「1×1コレクション展」もIAWAとの共催で行われた。2019年に収集方法が変更されて現在の形となり、2022年にコロンビアで70点、アルゼンチンでは105点のコレクションを得たそうだ。IAWAは、さらにコレクションを広く収集するために、IAWA オフ・キャンパス・アドバイザー（日本からは、2002年までは故中原暢子氏が務めた）の本会相談役の松川淳子氏へ参加の呼びかけを行い、日本での実行委員会が発足した。

■「1×1 コレクション展」のプロジェクト



森田 美紀 実行委員長

「1×1」プロジェクトがIAWAからの呼びかけで本格始動したのは2023年9月12日。以降27回の打合せを重ね、2024年7月1日から6日間「1×1コレクション展」が開催された。

「1×1」の解釈に時間を要し「ひとり一点、仕事上の大切なきっかけとなったアートワーク」という言葉にたどり着くまで、かなりの時間を費やした。それぞれの手書きのメッセージ・プロフィールと共に、そのひとりとなり表現された多様な47点の作品に対して、多くの来館者から共感と感銘のメッセージを頂いた。

2025年3月のIAWA設立40周年では、1×1日本コレクションの展覧会が開催予定とのこと。これからもIAWAとの連携を深め、日本をはじめ世界の建築分野の女性たちとの交流を継続していくためにも、今回、日本で「1×1コレクション展」が開催できたことはとても意義深いと感じる。末尾ながら、米国在住で、IAWAとのコンタクトに尽力いただいた江口陽子氏に深謝する。（プロジェクト実行委員会：井出、伊藤、江口、小川、岸本、正宗、松川、森田）

Background to the 1×1 Collection Exhibition

In 2011, the exhibition "Toward the Future: Portraits of Pioneering Women Architects" was held jointly with IAWA in Tokyo, Yokohama, and Saitama, beginning at the Architectural Hall Gallery. The "1×1 Collection Exhibition" held in the same gallery was co-sponsored with IAWA, which changed its collection method to the current form in 2019, resulting in 70 collections in Colombia and 105 in Argentina in 2022. In order to further broaden the collection, the IAWA formed an executive committee in Japan after a call for participation was made to Junko Matsukawa, an advisor to the Society, who was an off-campus advisor (from Japan, the late Nobuko Nakahara served as an advisor until 2002).

1×1 Collection Exhibition Project

The 1×1 project started in earnest on September 12, 2023, following a call from IAWA. Since then, 27 meetings have taken place and a six-day project exhibition was held from July 1, 2024. We apologize for not being able to give prompt advice to prospective exhibitors, as it took a long time to interpret "1×1" and to arrive at the phrase "One piece of artwork per person, an important trigger in my work". Many visitors were impressed and empathized with the 47 diverse artworks, each with its own handwritten message/profile and expressing its own personality. On the 40th anniversary of IAWA in March 2025, an exhibition of the 1×1 Japan Collection will be held. We are very happy that the 1×1 Collection Exhibition was held in Japan this summer in order to continue to deepen our cooperation with IAWA and to continue our exchange with women in the field of architecture in Japan and around the world. Finally, we would like to express our deepest gratitude to Yoko Eguchi, who lives in the USA and has made a great effort to contact IAWA. (Project Executive Committee: Ide, Ito, Eguchi, Ogawa, Kishimoto, Masamune, Matsukawa, Morita)

「1 × 1 コレクション展」オープニングパーティ
 パオラ・ゼルナー IAWA 議長のメッセージ抄録
 The Opening Party for the 1×1 Collection Exhibition
 Abstract of Message by IAWA Chair Paola Zellner
 宮本 伸子 MIYAMOTO Nobuko

1 × 1 コレクション展のオープニングパーティは、6月30日16時から、会場（建築会館ギャラリー）の外のイベントスペースにおいて、出展者の多くが参加し、IAWA からドナ・デュネイ名誉議長夫妻、来賓の東京都建築士事務所協会会長の千鳥義典氏を招いて開催された。

IAWA 議長のパオラ・ゼルナー氏は、急遽、来日できなくなったため、メッセージをドナ・デュネイ名誉議長が代読して、参加者に伝えたので、その概要を掲載する。

< IAWA 議長のメッセージ >

今夜の素晴らしいイベントに参加することができず残念である。UIFA JAPON の皆様、1×1 コレクションの作成に尽力していただいたことに感謝申し上げ、また東京都建築士事務所協会から千鳥会長に出席してお祝いのお言葉をいただいたことに御礼申し上げます。

世界中で多くの女性が建築環境とそこに息づく社会に貢献してきたにもかかわらず、その貢献はメディアや研究にも取り上げられず、消えてしまう危機にさらされている。IAWA では、彼らの足跡を収集し、資料として閲覧に供してきたが、研究者や訪問者は限定されている。

アーカイブにアクセスして資料に接し、深読みするほど、史料の当事者である女性建築家との連帯感、親しみやすさ、堅固な関係性といった感情の高まりを経験する。私達が同じような課題を抱えていたのだと気付かされる。その考え、想像などのプロセスを実体験できる。それが建築の学生や若い建築家であれば、自分の未来に可能性をみいだすきっかけになる。

新しい「1×1」は、そのコレクションをシンプルにすることで、多くの資料を収集し、この体験をより幅広く提供しようとしているものであり、今回日本で、従来のコレクションに加えて、多くの1×1 コレクションの作品が集まったことに感謝している。来年のIAWA の設立40周年の機会に展覧会を開催する予定であり、皆さんにも参加してほしい。



ゼルナー議長のメッセージを代読するドナ・デュネイ名誉議長と背後で通訳サポートの江口陽子氏
 (写真：平野正秀)

The opening party for the 1×1 Collection Exhibition was held on June 30 at 4:00 p.m. in the event space outside the venue (Architectural Hall Gallery), attended by many of the exhibitors, and featuring Honorary Chairperson Donna Dunay from IAWA, and her husband.

Since IAWA Chair Paola Zellner was unable to come to Japan on short notice, the message was read by Honorary Chair Donna Dunay on her behalf and conveyed to the participants. A summary follows.

Message from IAWA Chair

It is with regret that I am unable to attend tonight's wonderful event, and I would like to thank everyone at UIFA JAPON for their efforts in creating the 1×1 collection.

Many women around the world have contributed to the built environment and society, but their contributions are in danger of disappearing without media or research coverage. IAWA has long and painstakingly collected their footprints and made them archival material, but researchers and visitors are limited.

The more one comes into contact with the archive materials and reads them in depth, the more one experiences feelings of solidarity and familiarity with the women architects involved in the archive, and the more one experiences their thoughts, imaginations, and other processes. For architecture students and young architects, this is an opportunity to discover the possibilities for their future.

The works in this new Japanese 1×1 collection will be exhibited on the occasion of IAWA's 40th anniversary next year, and we hope you will join us.



建築会館ギャラリー展示設営風景 (写真：平野正秀)



3 作品に見入る来館者 (写真：松川淳子)



小川名誉会長作品前で語り合うデュネイ氏 (写真：江口陽子)

「IAWA 女性プロフェッショナルの貢献を記録する意義と手法」を聞いて 牛山 美緒 + 広報委員会
A Scholarly and Reliable Record of Women's Contribution to The Profession
USHIYAMA Mio + Editorial Committee



講師：ドナ・デュネイ氏 (写真：平野正秀)
バージニア工科大学名誉教授 (IAWA 名誉議長)
Lecturer: Donna Dunay, Professor Emerita,
Virginia Polytechnic Institute and State University (Honorary Chairperson of IAWA)

2024 年 7 月 1 日第 31 回記念講演会が、東京・三田、建築会館会議室で開かれた。「1×1 コレクション展」開催にあわせ、アメリカより来日されたドナ・デュネイ氏を講師にむかえ、UIFA JAPON 相談役・松川淳子の司会で行了われた。会場は対面とオンラインによる併用方式で、かつ日英同時通訳の講演となり、参加者は会場とオンラインをあわせて 40 名だった。

□幸運な出会い

ドナ・デュネイ氏にとり、IAWA のアドバイザーとして活動していた初期の頃、中原暢子、松川淳子と知りあえたこと、また、1998 年東京 UIFA 世界大会、2015 年ワシントン・バージニア UIFA 世界大会などに参加し、各国の女性建築家と知りあえたのはとても幸運だったと語る。

□創設と国際女性アーカイブのきっかけ

1980 年代初め、バージニア工科大学建築都市学部建築学科教授ミルカ・ブリズナコフは、女性建築家の情報が少ないことに気づいた。またブルガリア出身の彼女は、出身国やドイツで活躍した女性建築家の死後、図面等資料が廃棄されてしまったことに危機感を覚えた。このため、IAWA を創設し、女性が建築においていかに関与してきたかの歴史を明らかにするため、世界中の友人、建築家に 1200 通の手紙を送り、ライフワーク調査、図面や資料の寄贈、建築環境における女性の功績の記録作りへの協力を依頼する取組を開始した。



ブリズナコフ教授の手紙
IAWA Center News20220 NO.25/26

□IAWA の使命

ブリズナコフ教授の呼びかけにより 1985 年に設立された IAWA の使命は、

1. 世界中の女性建築家、造園家、デザイナー、都市計画家等の記録を発見、保存すること。
2. 引退したそれらの女性達に書類の寄贈を呼びかける。
3. 現役の女性達にも資料の保存、後日 IAWA に寄贈するよう呼びかける。
4. これらの資料はバージニア工科大学図書館の特別コレクションに所蔵され、情報のクリアリングハウス (※) の役割をつとめ、これらの職業における女性の歴史に関する研究を奨励する。
5. 他の図書館・アーカイブとの協力を推進していく。

□IAWA オフ・キャンパス・アドバイザーの結成

IAWA は 25 カ国よりアドバイザーを招き委員会を開き、国際的なアーカイブを構築してきた。中原暢子氏やドゥ・ラ・トゥール UIFA 会長は設立当初からのアドバイザーとなり、現在は松川淳子氏がアドバイザーを引き継いでいる。この委員会により IAWA が国際的な情報収集を行うようになる。

□多種多様なコレクション

1988 年にアメリカ建築家協会 (AIA) が建築界の女性 100 年の歴史を記念し、全米を巡回した「That Exceptional One」展 (右スライド) の展示品や資料は IAWA に収蔵され、AIA 最初の女性メンバーのルイーザ・ベッシュンの作品が展示されている。



「That Exceptional One」展ポスター

また、オランダの青と赤の椅子で知られる建築家リートフェルトと、建築家の母が設計したシュレーダー邸で育った娘ハンは、後に建築を目指す。変化し続ける空間で育った彼女が、住まいからどのような影響を得たかがわかる、手書きのスケッチなどを見ることができる。

日本初の女性建築家と言われる土浦信子は、夫の亀城とアメリカを旅し、ライトの学校・タリアセンで学び、その時に写された写真がある。彼女は帰国後、夫と共に建築家として活動後、抽象画家となる。この他、中原暢子についての資料など日本からの寄贈もある。

□ミルカ・ブリズナコフ研究賞

また、IAWA の創設者であるミルカ・ブリズナコフ研究賞がつくられ、建築および関連デザイン分野における女性に関する研究を募り、毎年 5000 ドルを授与し奨励している。

□1×1 の呼びかけ

建築とデザインの分野で貢献してきた膨大な数の女性達が世界にいるが、その多くは、出版物やソーシャルメディアにおいて存在感を示しておらず、彼女達の貢献の唯一の記録である作品が消えようとしている。彼女たちの歴史が消えてしまう前に、私たちは手を差し伸べなければならない。今、IAWA はこの国際的な呼びかけ「1×1」で、世界中の建築・デザインに携わるすべての女性が制作したオリジナル作品を 1 点ずつ集めようとしている。建築およびデザイン関連分野で活躍するすべての女性に、たったひとつのオリジナルの作品を投稿してもらい、提出された作品は IAWA・1×1 コレクションの一部となり、その作品が教育や実践において、どのような役割を果たしたかを記した手書きの文章とともにアーカイブされ、保存される。



1×1 の呼びかけ

※クリアリングハウス；複数の情報システムを中継し、様々な形式データを相互に利用できるような仕組み

2023年、キンバリー・ダウデル FAIA（米国建築家協会会長）は IAWA の 1×1 募集にスケッチを寄贈した。アメリカだけではなく、スペインやアルゼンチンで 1×1 展が開かれ、そして今回、UIFA JAPON と共に日本において開催された。

このようにして、現役の女性建築家に自分の史料を提供してもらい、これら女性建築家の研究を進めていこうとしている。

□アーカイブは未開発のアイデアの宝庫

現在、IAWA では 1890 年代から現代まで 435 以上の個人、企業、組織、展示物の遺産を記録している。常設コレクションには、膨大な文書、写真、建築図面、スケッチ、資料、建築模型などアーカイブに保存され、これら情報のクリアリングハウスや、WEB サイトの更新をしている。これらについての研究だけではなく、新たなすばらしい建築、インテリアプランなどについてアイデアを生む大きな可能性を秘めている。

■講演会を聞いて

今回の講演を通し、建築に関わる仕事をしている世界の女性たちに、（もちろん男性も含めて、）これまで建築に携わった女性の建築作品やそれに対する思い入れを伝えていくことの大切さを改めて感じた。また、最後の質疑応答では、若手の参加者から、IAWA が設けている助成金制度についての質問などもあり、有意義な講演会であったと感じた。

On July 1, 2024, the 31st commemorative lecture was held at AIJ Building in Tokyo. The lecturer was Donna Dunay from the USA, visiting Japan for the “1×1 Collection Exhibition.”

Fortunate Encounters

Donna Dunay says she was very fortunate to have met Nobuko Nakahara and Junko Matsukawa in the early days of her work as an IAWA advisor, and female architects from various countries at the UIFA World Congress and other events.

Establishment of International Archive of Women in Architecture

In the early 1980s, Milka Bliznakov, Professor of Architecture, Virginia Tech College of Architecture,

realized that there was very little information about women architects. Being a native of Bulgaria, she felt a sense of urgency about drawings and other materials being thrown away after the death of a female architect. This has led to establishment of the International Archive of Women in Architecture (IAWA).

Board of Advisors

The IAWA has built an international archive by inviting advisors from 25 countries to form a Board of Advisors. Nobuko Nakahara and UIFA President Solange d'Herbez de la Tour became advisors at the time of establishment, and Junko Matsukawa is currently a succeeding advisor. This Board allows IAWA to international information.

Call for 1×1

Numerous women around the world have contributed to the built environment and design-related fields, but many have no presence in publications or on social media. The international call 1×1 attempts to collect from around the world one original work created by every woman in architecture and design. All women working in architecture and design-related fields are invited to submit a single original piece of work, which will become part of the IAWA 1×1 collection and explore its role in education and practice. It will be archived and preserved along with a handwritten note describing how it was accomplished. This time, it was held in Japan with UIFA JAPON.

A Treasure Trove of Untapped Ideas

Currently, IAWA has archived the heritage of more than 435 individuals, companies, organizations, and exhibits from the 1890s to the present day. It is acting as a clearing house of this information: creating a system that relays multiple information systems so that data in various formats can be used mutually, and updating the website.

Thoughts on the Lecture

Through this lecture, I once again realized the importance of communicating architectural works by women and their feelings about them to women around the world who work in architecture, as well as to men, of course.



IAWA_vt インスタグラムで 賞・1×1 の紹介
https://www.instagram.com/iawa_vt/



記念講演会を終えて、参加者全員のオンライン撮影

デュネイ夫妻、日本女子大学と（株）大林組本社を訪問

2024年7月2日に、多くの建築関連の専門家を輩出している日本女子大学と、女性社員の雇用に積極的に取り組んでいる大手建設会社大林組へのデュネイ夫妻訪問に、同行取材した。（広報委員会）

On July 2, 2024, we accompanied Mr. and Mrs. Dunay on a visit to Japan Women's University, and to Obayashi Corporation.

□日本女子大学訪問

日本女子大学では、本会小川信子名誉会長、正宗量子相談役らと共に、篠原学長、宮崎副学長らと面談。篠原学長から、住居学科は、今年から建築デザイン学部と改編されたこと、“建築でかなえられることのすべてを”をモットーに躍進の機会と考えているという挨拶があった。デュネイ名誉教授から IAWA のミッションと、訪日の目的が述べられ、1X1 日本コレクションに多くの住居学科出身の女性建築家が参加したことが報告された。IAWA のアーカイブの教育的意義について意見が交わされ、宮崎副学長から、STEM 教育（科学・技術・工学・数学の教育分野を総称）でも貢献したプロフェッショナルの記録の歴史が重要になっていることが指摘され、将来同じことを目指す大学どうし互いに学び合いたいと語り合った。次いで、キャンパス内にある妹島和世氏設計の図書館や、学科スタジオのある樟溪館で基礎デザイン教育（1 年次「形とデザイン」）の現場を見学した。

（同行取材：井出幸子）

□（株）大林組本社訪問

椿山荘での昼食後、株式会社大林組の東京本社を訪問。設計本部長室長はじめ4名の方（内1名は本会の会員）から、会社の概要・諸プロジェクトの説明と女性社員の現状報告と共に、建築デザインエンジニアリング部門における女性の積極的な採用と、女性総合職制度「一般職」を廃止し、大手ゼネコンで初の女性現場監督が誕生する等の支援策の説明を受ける。建築教育を受けた女性たちの力が発揮できるための企業側の課題として、在社時間の長さではなく生産性の高低での業務評価方式への変換、早退や緊急の休暇による避けられない業務上の混乱などに対して、上司や同僚の理解、育児の責任のために仕事上の目標を達成できないことで感じるストレスへの対応が挙げられた。デュネイ夫妻らとの意見が交わされ、多様性が重要視されているが「子ども」もその中に含まれるという考えもあり、企業としても子どもや子育てに関しての多方面での配慮が求められ、建築業界は女性にとって魅力ある職場にしていく必要がある事などが話された。

（同行取材：平野啓子）

At Japan Women's University, we met with President Satoko Shinohara and Vice President Akane Miyazaki. President Shinohara noted that the Department of Housing has been reorganized as the Faculty of Architecture and Design this year, and that she sees this as an opportunity to make a breakthrough under the motto “Everything that can be achieved through architecture”. Professor Dunay explained IAWA's mission and the purpose of her visit to Japan, and discussed the educational significance of the IAWA. Vice President Miyazaki pointed out that the history of records of professionals who have contributed to STEM education is becoming increasingly important, and they discussed their desire to learn from each other as universities that aim to do the same in the future. Report by Sachiko Ide

The group visited the **Tokyo headquarter of Obayashi Corporation**. Along with an overview of the company and its various projects, and a report on the current status of female employees, the delegation received an explanation of the active recruitment of women in the architectural design engineering department and support measures such as the abolition of the female career track system 'general positions' and the creation of the first female site supervisor among major general contractors. The challenges for companies to enable women to fulfil their potential included: converting to a work evaluation system based on productivity rather than length of time in the office; understanding by supervisors and colleagues of the inevitable work disruption caused by leaving or emergency leave and dealing with the stress felt by not achieving work targets due to childcare responsibilities. The Dunays and their colleagues exchanged opinions on the importance of diversity and the idea that children are included in this, the need for companies to consider many aspects of children and childcare, and the need to make the construction industry an attractive place for women to work. Report by Keiko Hirano



日本女子大学にて



基礎デザイン授業参観



株式会社大林組にて（写真：全て平野哲子）

1 × 1 コレクション展に参加して

- Kビル

Joining the 1x1 Collection with K Building

河原 美津子 KAWAHARA Mitsuko



(写真：平野正秀)

作品は1977年完成の小さな集合住宅Kビル。仕事を与えられたことに感謝し、仕事を継続的にやっていくことになった初期の作品であるが、基本にあるのは人間的スケール。現在でも住人の笑顔が見えるのがうれしい。今回の企画は“住人が安心して過ごせる、人にやさしく、心地よい空間とは？”と考えてきた今までの仕事を振り返る良い機会となった。

建築関連の仕事に携わる女性たちから、一人一点ずつ「仕事上の大事なきっかけとなったアートワークを集めて展示します」ということだったが、結果、いわゆる建築作品に限らずなんと多岐にわたる作品が集まったことか！それぞれが大切にしているものが見えてきてその素晴らしい展示にワクワクした。そこには女性ならではの社会貢献、しなやかな生き方、地味だけど本当に大切にしたいもの、未来への可能性を感じさせるものなど興味深いものがたくさんあった。

特に小川信子先生の“落水荘に魅せられて”はすばらしい墨絵で表現されていたし、上條千恵子氏の“金唐革紙、海外へ”など建築作品以外のものもあったが、どれも建築的な見方が生かされていると感じられる楽しい展示だった。

I contributed my design of a small apartment complex completed in 1977. While it was an early project in my career, I am grateful for the opportunity I was given and its key is human scale. The 1×1 Collection provided a good opportunity to reflect on my career, where I have continuously considered, “What kind of space allows residents to feel safe, is kind to people and is comfortable?” The exhibition gathered one piece of “artwork that served as an important catalyst in their professional lives” from each of the women involved in architecture. As a result, the range of works collected extended far beyond so-called architectural works! Seeing what each person cherishes was fascinating, and it made the exhibition exciting. There were many intriguing pieces that reflected women’s unique contributions to society, their graceful ways of living, the truly important yet modest things they cherish, and the possibilities for the future.

1 × 1 コレクション展に参加して

- 木造伝統構法による保育ホール空間づくり -

Participating in the 1x1 Collection Exhibition:
Nursery hall space using traditional wooden
construction methods 片岡 泰子 KATAOKA Yasuko

(写真：平野正秀)

アートワークの展覧は、自身の仕事や活動の原点を改めて確認できた貴重な体験で、UIFA JAPON からの誘いで参加させて頂き、感謝している。

作品の築33年となるくすみ共同保育園は意匠設計力だけでなく構造家、棟梁・大工達の力により完成した。構造は丸柱、通常の製材を用いた真壁の伝統構法。樹木の枝がホール空間を支えるイメージで、保育園側のインクルーシブ保育方針と重なった。園舎完成後は保育園側に大切に活用され、園児の父親（建築士）によるメンテナンスで長寿命の園舎を目指している。「設計→施工→活用と維持管理」の連携がモノづくり立場として嬉しく、設計活動の基本となった。

展示会場でのアートワークはいずれも様々な個性であった。作品の製作手法もそれぞれに面白い。作者が我が仕事の基点、想いを、活動年代を反映しながら表現され、なかなかの迫力。UIFA 会員の活動分野の幅広さを感じた。

ドナ・デュネイ氏のオープニングパーティのお話でIAWA 設立当時は、女性の建築分野でプロとした活動への様々な社会的しびりがあったとのことで、世界の共通であったと認識。他国との情報交換、交流を重ね築いた今の連携力に感動した。UIFA JAPON の今後の活躍を期待し、応援を続けたい。

Exhibiting artwork was a valuable experience that allowed me to reconfirm the origin of my own work and activities and I am grateful for the opportunity to participate from the outside.

The 33-year-old Kurumi Kyodo nursery school was completed not only with the help of the designers and architects, but also with the help of the structural engineers, builders, and carpenters.

The linkage of "design → construction → utilization maintenance" became the basis of design activities.

I was impressed by the power of cooperation that has been built through information exchange and interaction with overseas countries, and I look forward to UIFA JAPON's future activities and will continue to support it.

UIFA JAPON 事務局
〒102-0083
東京都千代田区麹町 2-5-4
第2 押田ビル (株)生活構造研究所内
Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866
E-mail: uifa@liql.co.jp
URL: http://uifa-japon.com
発行 2024年9月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON
c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUANTITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI,CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083
PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866
URL :http://uifa-japon.com

被災地通信 30

2024 年能登半島地震の復興支援活動について
Noto Peninsula Earthquake Reconstruction Assistance
Activities 2024 平野 正秀 HIRANO Masahide

2024年1月元旦の厳寒期の発災であったこと、交通網の遮断・宿泊拠点の不存在等が重なり、実質的な復興支援活動の議論に入れたのは3月下旬だった。その後の会議を経て5月中旬の能登半島現地調査が決まり、復興まちづくり研・UIFA JAPON・東大学生グループの緩やかな3者複合の能登復興支援体制となった。

能登復興支援調査の目的は第1に能登半島の被災した人口約11万人の能登6市町(七尾・輪島・珠洲・能登・穴水・志賀)の状況を把握すること。第2に現地の住民団体、NPO、建築関連団体、自治体からの聞き取りを実施し今回の被災からの復興に向けた課題・問題点を整理すること。第3に中越、東日本、熊本と実施してきた様々な復興支援活動(どこでもカフェ、相談会など)が「実施できる具体的地域・場所」の確定を行うこと等々だった。

その結果、移動手段・移動距離・時間などの問題から、1月からの物資支援活動や個人的関係で繋がりの強かった「七尾市」の田鶴浜町に「中間拠点」を定め、そこを能登復興支援の出発点とし、年間の「調査計画」を組み立てた。

第1次調査の報告

2024.07.20 @生活構造研究所

第1次調査(5月16日(木)~5月19日(日))は、能登半島入り口の七尾市田鶴浜町を皮切りに門前町総持寺、黒島、鹿磯港、町野金蔵、輪島市内(朝市等)、曾々木海岸(時国家等)、珠洲市内、内灘等だった。この調査のルートや調査した地点、ヒアリングした諸団体については、UIFA JAPON 7月20日の報告書を、写真等については以下のサイト参照。



学生Gのスマホカメラ

https://photos.app.goo.gl/pmdGYkn7mJTLKHv86

平野カメラ: https://photos.app.goo.gl/H6fpD7Ntqjy8ECYv8

会員の本

1×1参加の本『教養としての都市計画・まちづくり』
1×1 Participation Book "Urban Planning and City
Planning as an Education"

北本 美江子 KITAMOTO Mieko



(写真:平野正秀)

1×1コレクション展の募集要項には「2次元」とあって問い合わせたが、私の場合「仕事上の大切なきっかけとなったアートワーク」はこの本しかないので参加した。

近代都市計画が始まった経緯を私なりに、何冊かの歴史書の理解をもとに、近代化や工業化による都市化を調整した欧米の様子とそれに追随した日本、という構図でまとめた少部の自費出版だった。最近の世界情勢の中では必ずしも欧米を手本にしないという傾向もあり、新しい動きを加筆した商業出版を忠告してくれる人もいた。

30~40年前に夫の赴任に伴い、5年半滞在したパリでの生活実感を書いたが、今、パリ五輪で街を舞台に開会式を行うなど、たくさんに流れるTVの映像を見て、改めて都市計画では彼我の力量の差を見せつけられる気がしている。オペラ座が見えにくくなると、設計者ガルニエが街路樹を抜いてしまったという時代から、現在のパリの女性市長は大胆な緑化計画を推進しようとしているとの新聞記事があった。たゆたえども沈まずと言われるパリは健在だと改めて思った。

開発発展と調和に悪戦苦闘する日本の都市計画にあって、自然災害への対応はせざるを得ないが、せめて戦争のような人為的な破壊は避け、前向きに進みたいものだ。



発行:2016年7月

役員会報告

2024年度第2回 2024年5月8日オンライン会議 総会、記念講演会、1×1コレクション展広報準備、家庭画報記事報告、台湾地震お見舞い返礼、NL128号企画報告

2024年度第3回 2024年6月5日オンライン会議 総会資料確認、記念講演会・展覧会準備、Web交流会準備、源流研究会資料整理報告、NL128号編集報告

2024年度第4回 2024年7月31日オンライン会議 総会、記念講演会、展覧会報告、30周年記念誌発刊について、Web交流会「能登調査報告」について、NL128号編集報告

編集委員からひとこと

各々の作品に個性を感じた展覧会(薄井) / 久しぶりの展覧会の設営から片付けは、さすがユイファ・ジャポンの連携力を実感(宮本) / 探した作に冷汗の夏1×1、新米編集委員はNLの一気見で夜なべする(平野啓子) / 1×1の作品は、皆のルーツとも言える、それぞれの想いが伝わってくるものだった(牛山) / ドナ・デュネイ先生より伝えられた「1×1展」意義=「女性の地位記録」「手書きの説明は、制作者と再会できる」、多くの共感を願って(御船) / 自分史を振り返り「私の1×1って、これ?」と。名残惜しい魅力的な展覧会だった(井出・編集長)